

横浜市歴史博物館及び三殿台考古館指定管理者選定委員会

横浜市歴史博物館

議事要旨

◆第1回選定委員会

議題	1. 委員長の選任 2. 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の検討 3. 選定スケジュール、評価手順の確認
日時	平成17年7月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山 和雄（國學院大学教授） 川口 徳治朗（神奈川県立歴史博物館学芸部長） 齊藤 毅憲（横浜市立大学教授） 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会会長） 水嶋 英治（常盤大学大学院教授） 室谷 参（横浜市立小学校長会 並木第四小学長）

審議内容：○ 委員会運営決定事項

- ・齊藤 毅憲委員を委員長に決定
- ・今後の委員会の公開非公開の決定

○ 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準、公募要項の検討

＜業務基準について＞

- ・市としての文化財等施策の「基本方針」、施設の「業務基準」について
- ・専門性の担保について

＜公募要項について＞

- ・一次、二次の二段階方式、手順、スケジュールについて
- ・一次、二次の審査の方法、採点の分離、最低ライン設定について
- ・評価の点数化の方法について
- ・評価結果の応募者への伝達のあり方、審査報告書のあり方について
- ・具体的な評価ポイントの事前公表について
- ・透明性の確保について

＜提案課題について＞

- ・課題の内容について
- ・応募者の創意工夫を受け留める自由提案について

＜評価基準について＞

- ・評価の判断基準の共有化について
- ・経費削減、収支予算の評価について
- ・提案書類と実態能力の乖離を小さくする方法について
- ・ヒアリングのあり方について

○ 決定事項

- ・公募スケジュールの決定
- ・業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の決定

◆第2回選定委員会

議題	1. 一次審査 2. 一次審査通過団体の決定
日時	平成17年8月22日（月）午前9時30分から午前11時
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	齊藤委員長、上山委員、川口委員、西田委員、室谷委員

審議内容：○経過の確認

- ・公募告知、要項等配布の状況
- ・公募説明会の参加状況、現場見学会の状況
- ・質疑応答の状況

○応募団体確認

- ・2団体の提案の確認
- ・欠格条項非該当の確認、経営診断の確認

○一次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○2団体からの一次提案書の審査

＜博物館運営の経験、専門性について＞

- ・博物館運営の実績の有無、経験の差異をどう評価するか、部分的な専門性や技術の高さと総合力の評価が議論された。実績と総合力あるものが高い評価を得た。

＜歴史博物館のミッションの理解について＞

- ・市としての基本方針の理解の度合い、横浜の歴史博物館の使命の認識に差異があり、A社は一面的にすぎないのではないか、専門性が偏っているのではないかと評価された。

＜専門能力と組織体制について＞

- ・専門性の確保、また専門性を高めていく仕組み、考課や評価という点でA社の提案はかなり問題のある評価がなされた。

＜組織の広がり、協働、市民参画について＞

- ・多様な機関との連携や協働による事業展開といった面で、A社の評価はかなり割れ、課題が指摘された。

＜学校との連携について＞

- ・博物館と学校との関係は多面的であるが、A社の提案は一面的で少々のがはずれていると評価された。B社はエデュケーターを配置し、学校のニーズや実態を十分理解した提案がなされていると評価された。

＜博物館評価について＞

- ・博物館評価について、極めて優れた提案はないが、A社は、博物館の特性を十分に理解しているとはいいがたく、欧米の評価について状況に対する誤解もあり、違和感があると指摘された。

＜全体として＞

- ・A社は部分的には優れた提案があるが、全体と通してみると施設運営に必要な多面的な専門性、総合力に欠ける。博物館施設の運営経験がないことから提案内容が一面的であったり、内容を薄くしているといった評価がなされた。また、B社については、これまで運営を担っているとすれば、かなり高い水準で書けるのが当然であり、もっと書き込んでもよいのではないか、指定管理者に向けたもっと強い意欲が表現されるべきではないかといった評価もなされた。

○ 一次通過者の決定

- ・最終採点の結果、要項に定める一次審査通過の最低ラインをA社は超えることができず、一次審査不通過となった。総合的な判断においても、二次の提案課題に応じていくことは難しいと判断された。B社については、提案内容に安心感と安定感があり、総合力の高さが評価され、3以上評価の獲得率も100%と一次審査の通過最低ラインも問題なくクリアし、評価得点は1650点中1264点と高い評価点を獲得したことから、一次審査通過と決定された。提案を具体化する詳細な部分については、二次提案及びヒアリングに確認したいとされた。

■一次審査結果： 一次審査通過団体

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

◆第3回選定委員会

議題	1. ヒアリング 2. 二次審査 3. 最優秀提案者の決定
日時	平成17年10月9日（日）午前11時20分から午後0時20分
開催場所	横浜開港資料館 講堂
出席者	齊藤委員長、上山委員、川口委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○ 経過の確認

- ・ 二次現場説明会の状況
- ・ 二次質疑応答の状況

○ 二次提案書提出応募団体確認

- ・ 1団体提案の確認

○ 二次仮評価の検討

- ・ 評価得点の確認
- ・ 通過最低ラインの確認

○ 一次通過 1 団体からの二次提案書に対するヒアリング

＜資料の収集方針について＞

- ・ 資料収集の具体的な対象などの方針、都市発展記念館との収集範囲の住み分けについて質問がなされ、「横浜に生きた人々の生活の歴史」というコンセプトからの収集範囲の提示、都発とのすみわけと連携について提起がなされた。

＜複数施設運営のメリット、デメリットについて＞

- ・ 複数館を運営することになった場合のスケールメリットをどう発揮できるのか、経費的な削減ができるとすればそれはどこかに活かされるのかについて質問がなされ、指定管理者の枠組みの前提はあるが、メリットを活かす方策が提示された。また、資料収集などにも努力したいと提示があった。

＜総力を結集する取組みについて＞

- ・ 複数館を運営することの総合力の発揮を開港150周年など大型イベントだけでなく、日常的にやるべきでないかという質問に、150周年は契機として大いに活用するが、横断的な協議によって出版や調査研究などで取組みを進めたいと回答があった。

＜市民にわかる総合力の発揮について＞

- ・ 専門家連携してというだけでなく、複数館が連携して市民とかかわりあるということができないのかとの質問に対して、市民からの質問等へのワンストップサービスなどの提示があった。

＜市民協働推進や市民サービス向上の専門性について＞

- ・新たな提案が幅広くなされている、新たな専門性を必要とする業務もあるが、人材的に可能なのかという質問に対して、プロジェクト型の多職種協働で取組みたいとの回答があった。

＜子供に対する取組みについて＞

- ・子供の居場所作り事業について質問がなされ、子供に対する体験・普及活動としてより体験的なものを工夫していきたいとの回答があった。

＜学校との連携について＞

- ・学校への取組みの充実に向けた体制についての質問に対して、校長OBをエデュケーターとして配置し、学校の実態や都合、学年ごとのニーズとうまく適合した取組みを進めるべく努力しているとの回答があった。具体的に小学校との研究会を立ち上げて検討を進めていることなども紹介された。

○ 二次審査

＜新たな専門性の獲得について＞

- ・市民協働にしてもこれまでの人が余技的にやるものではないし、専門性が必要であり、そのような能力を具体的に組織としてどう育成するのかは課題であるとの指摘がなされた。
- ・また、プロジェクト型でそのような能力を付けようとしても実態は難しく、その道の専門家が束ねるリーダーとしていないと組織力としては向上しない、それはいずれの施設でも経験済みではないかといった指摘があった。

＜提案と現状の距離について＞

- ・現状維持でも大変なかで、提案を実現していくのは相当に大変である。プロデューサー的な人材を必要とする新たな展開については、コスト削減ではなくコストをかけるという部分も必要で、協働やボランティアだけでは解決できないものがあるとの指摘もあった。

＜組織の責任の明確さについて＞

- ・組織のなかで誰がどの部分の責任を担うのか、第1順位、第2順位といったことが明確でない。責任をもって取組むことがないと変わらないのではないかと指摘がなされた。これは、評価が重視されてきているなかで、もっと重い課題として捕らえるべきとの指摘もあった。理念的でなく、具体的に組織としての取組みをもう少し明確にしていくことが課題とされた。

○ 最優秀提案者の決定

- ・最終採点の結果、3以上獲得割合7割という最低基準ラインに対して100%、評価得点2400点中1855点と高い評価を獲得し、最優秀提案者として決定することに全員が一致した。

■二次審査結果： 最優秀提案者

財団法人横浜市ふるさと歴史財団